

第5回山ノ内町立学校づくり準備委員会 次第

日 時 令和7年9月26日（金）
午後5時30分～午後7時30分
場 所 山ノ内町文化センター 3階ホール

1. 開 会

2. 委員長あいさつ

3. 報告事項

（1）前回委員会の会議結果について

（2）まちづくりこども委員会の会議結果について

（3）インスタグラムの開設について

4. 会議事項

（1）統合学校の開校に向けたコンセプトについて（※グループ討議）

〈テーマ〉

「安心していただける場所・空間」

5. その他

①10月1日の先進地視察について

②学校づくりにかかるシンポジウムについて

6. 閉 会

山ノ内町立学校づくり準備委員会 9月ワークショップ名簿（修正）

	所属等	氏 名	グループ
1	山ノ内中学校 P T A	小湊 崇法	A
2	かえで保育園保護者会	大裕 若菜	
3	ほなみ保育園保護者会	山戸真理子	
4	東小学校長	北垣内 博	
5	西小学校長	竹内 由紀	
6	子ども会育成会連絡協議会長	下田 敏雄	
7	オブザーバー（専門部会委員）	望月和佳奈	
1	南小学校 P T A	平原 剛	B
2	よませ保育園保護者会	小淵 正成	
3	山ノ内中学校長	山口 近	
4	主任児童委員	佐藤 重子	
5	社会教育委員	羽田 吉彦	
6	公募委員	新井 彩香	
7	オブザーバー（専門部会委員）	畔上 恵子	
1	東小学校 P T A	南條信太郎	C
2	南小学校長	中村まゆみ	
3	学識経験者（学校長経験者）	原 隆文	
4	議会社会文教常任委員会委員長	高田 佳久	
5	公募委員	杉戸 香奈	
6	オブザーバー（専門部会委員）	瀬川 夏実	
	学識経験者（信州大学）	伏木 久始	
1	I C T 教育コーディネーター	清水 智	欠
2	オブザーバー（専門部会委員）	金井 学	
3	西小学校 P T A	渡邊 充	
4	すがかわ保育園保護者会	丸山恵美子	
5	志賀高原保育園保護者会	佐藤 穂積	
6	園長会（志賀高原保育園長）	岩本 光	
7	区長会	山崎 昭	
8	里山ようちえん おやまのおうち	山崎 龍平	

事務局	教育長	竹内 延彦	
	教育次長	望月 弘樹	C
	こども未来課学校統合準備係長	山本 敏幸	B
	こども未来課学校統合準備係	畔上 俊樹	A
	こども未来課学校統合準備係	菅原 勇介	

山ノ内町立学校づくり準備委員会 会議結果報告書

会 議 名	第4回 山ノ内町立学校づくり準備委員会	
日 時	令和7年8月26日（火） 午後5時30分～午後7時30分	
会 場	よませふれあいセンター 軽運動室	
出席・傍聴人数	出席 21人 / 欠席 8人	傍聴者 7人
会議内容	【報告事項】 ・ 前回委員会の会議結果について（資料1） 【会議事項】 (1) 学校統合の開校に向けたコンセプトについて ＜テーマ＞これからの学校と多様な学びについて『グループ討議』（資料2） ゲストスピーカーとして「NPO法人ぱーむぼいす 理事長 池田剛氏」を講師に招き、学校以外の場で学んでいるこどもたちの姿について講演いただいた。 4 グループに分かれ学校の意義や多様な学びに関する意見を自由に出し合い、グループごとにキーワードを3つ発表して、新しい学校づくりに向けた意識の共有を図った。 【その他】 ・ 県内先進地視察について ・ 学校づくりにかわるシンポジウムについて	
決定事項等	・ 学校づくり準備委員会の視察を10月1日（水）に実施 ・ 学校づくりにかかるシンポジウムを11月16日（日）に実施	
会議概要及び 質問・意見等	【これからの学校と多様な学びについて（グループ討議）】 1. 人とのつながり・仲間づくり 多くのグループが学校は人とのつながりや仲間を作る場所として重要であると認識した。このつながりは人間形成の基礎となり、社会性を育むことにもつながり、一人ではできない経験や学びを仲間と共に行うことができる場である。 2. セーフティネットとしての役割 学校はこどもを守り保護者を支えるセーフティネットとしての役割を果たしている。学校を通じて様々な人とつながることで、こどもたちを町全体で育てるための基盤ができる。 3. こどもも大人も「やりたいこと」ができる場 こどもだけでなく、大人も学校で「やりたいこと」ができる場所になれば、より魅力的な場所になるという意見が複数出た。学習活動の中で個に合わせた学びを提供することが重要である。大人がこどもを枠にはめようとしたり、過度な口出しをしたりせず、見守ることが大切だという意見があった。 4. 固定概念にとらわれない学びの場 「先生なし、教室なし、単元カリキュラムなし」といった、従来の学校の固定概念にとらわれない場を作るアイデアが提案された。また、AIに頼りきりにならない、対人での学びの重要性も議論された。 5. 意識改革と柔軟性 学校をより良い場所にするためには、教師や大人の意識改革が必要である。こどもの意見を尊重し、多様な学びを追求する姿勢が求められる。	

会議概要及び 質問・意見等	○全体的なまとめ 今回の議論全体を通して、学校は単に知識を学ぶだけの場ではなく、人とのつながり、社会性の育成、こどもと大人が共に成長できる「コミュニティ」としての役割が重要であるとの認識が共有された。特に、こどもたちが「行きたい」と思えるような、やりたいことが保障される場所づくりが今後の課題として挙げられた。 【その他意見等】 ・学校づくり準備委員会の意見も活発になり非常に良い雰囲気で行われている。学校統合について、委員会と地域の方との温度差が出ているので、この会議の様子を動画配信してもらい、町民にも共有できる環境を作ってほしい。
--------------------------	---

第4回 学校づくり準備委員会 グループワークのまとめ

1 学校の意義

- **社会性の育成と人間形成の場である**
 - グループ討議では、学校が単に知識伝達ではなく、人との交流を通して社会性を育む最も重要な場所であるという共通認識があった。特に、対面での交流やリアルな体験は、こどもたちの知的好奇心や感情を刺激し、心に深く刻まれる。
 - 友人や先生に認められ、褒められる経験は、こどもの自己肯定感を高め、健全な人間形成の基礎となる。家庭とは異なる集団の中で、自分以外の多様な価値観に触れることが、心の成長には不可欠である。
 - AI の進化によって知識は容易に得られる時代になったからこそ、人との「学びあい」「支えあい」といった交流の価値が再認識された。
- **多様な役割とセーフティネット機能を持つ**
 - 現代社会において、学校が担う役割は複雑化している。かつて家庭や地域で行われていた防犯教育、インターネットリテラシー教育なども、学校の役割との考え方もある。
 - 学校はこどもたちを守り、育児に課題を抱える家庭を支援するセーフティネットとしても機能している。しかし、この役割を学校だけで担うには限界があり、地域や専門機関との連携が不可欠であるという課題が示された。

2 明日も来なくなる学校に必要なこと

- **自己肯定感を育む環境を整える**
 - こどもたちが「明日も行きたい」と思えるためには、一人ひとりの個性や良いところを認め、伸ばす環境が必要である。画一的な評価ではなく、多様な価値観を尊重することが、こどもの自己肯定感を育む第一歩となる。
 - 「やらされている」と感じる勉強ではなく、こどもが自ら「やりたい」と思えるような授業や仕掛けが求められている。これには、好奇心を引き出す体験活動や、興味関心に基づいた探求活動の導入が有効である。
- **大人の意識改革と柔軟性を促す**
 - こどもたちの主体性を引き出すためには、教師や保護者、地域の大人が意識を改革し、こどもたちを特定の「枠」にはめないことが重要である。こどもが自由に活動できる時間と場所を確保し、大人は「見守る」姿勢を持つことが求められる。
 - 従来の「先生」という呼び方ではなく、こどもと同じ目線に立った「～さん」といった呼称も、関係性を変えるきっかけになり得るという意見も出た。教師は、知識を教えるだけでなく、こどもたちが自ら学びを深めるファシリテーターとしての役割を担う必要がある。
- **遊びと学びのバランスを再考する**
 - 高学年や中学生になるにつれて、「勉強」の比重が増し、自由に遊ぶ時間が失われがちである。しかし、遊びの中から社会性や協調性が育まれることも多いため、遊びと学びのバランスを再検

討していく必要があるという意見が出た。

- 給食やクラブ活動、部活動、放課後の活動など、勉強以外の多様な「楽しみ」を学校生活の中に確保することが、こどもたちのモチベーションを高める鍵となる。

3 今後の意見交換が必要な事項

- 「やりたいこと」と「やらなければならないこと」の統合
 - こどもたちの好奇心を刺激する「やりたいこと」と、義務教育で必要な「やらなければならないこと」をどのように統合するか。例えば、地域と連携したプロジェクト型学習など、両方の要素を兼ね備えたカリキュラムの開発を検討する必要もある。
- 多機関連携による支援体制の構築
 - 不登校や家庭の課題を抱えるこどもたちを支えるため、学校だけでなく、教育支援センター、NPO、医療機関、児童相談所などが連携する包括的な支援体制をどのように構築していくか、具体的な役割分担や情報共有の仕組みを議論する必要がある。
- 教師の専門性と研修のあり方
 - 教師の役割が多様化する中で、どのような専門性が必要とされるのか。また、その専門性を高めるための研修をどのように充実させていくか。こどもの主体性を引き出すためのファシリテーション能力や、多様な背景を持つこどもへの対応力を養うことが今後の課題となる。

4 まとめ

今回のグループ討議では、学校の役割を単なる知識伝達ではなく、「社会性と人間性を育む場」として捉え、未来に向けて変革していくことの必要性が各グループで共有された。

特に、AI 時代だからこそ、人との「学びあい」や「支えあい」といった交流の重要性が増している。こどもが主体的に「やりたいこと」に取り組めるよう、大人も意識を改革し、「多様な学び」を支える環境を整えていく必要がある。

不登校増加という課題に対しては、早期の家庭支援を含めた多様な受け皿の必要性が示された。これらの議論を通じて、学校がこどもと大人の双方が「明日も楽しみになる」ような場所になることを目指したい。

○ 伏木先生の話

日本の学校教育は、「こどもの意見表明権」や「こどもの最善の利益」の保障が十分ではないと国連から指摘されている。こどもたちが「やらなければならないこと」だけでなく、「やりたいこと」をできるような環境を整えることが求められ、山ノ内町の新しい学校はそこにチャレンジすると期待している。



山ノ内町新しい学校づくりわくわく会議

公式 Instagram 開設しました!!

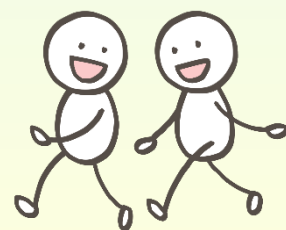
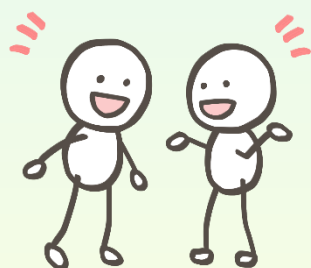
こどもも大人もともに学び育つ

こどもも大人もチャレンジャー

新しい学校の準備状況や、最新情報を Instagram で発信していきます。
ぜひフォローしていただき、一緒に山ノ内町の未来を創る仲間になってください!

▼Instagram へはこちらから!

Instagram で「山ノ内町新しい学校づくりわくわく会議」と検索するか、QR コードを読み込んでください



フォロー&いいね!をよろしくお願いいたします。

【問合せ先】

山ノ内町教育委員会こども未来課学校統合準備係 山本 菅原 畔上

TEL:0269-33-1102

Mail:gakko@town.yamanouchi.lg.jp



9月26日 学校づくり準備委員会

資料4

グループワーク

「安心していただける場所・空間」

これまでの議論をふりかえる

対話 | 短時間でお願いします

グループで話してみよう

「これまでの準備委員会の中で印象に残っていることは」

これまでの議論をふりかえる

第2回準備委員会では 「義務教育学校でおしゃべり」

- ・ 1. 新しい学校への期待
- ・ 小中連携による多様な学びの実現
 - 。 小学5・6年生の部活動への参加など、異年齢交流による縦割りの助け合いの場となる可能性。
 - 。 教員配置の柔軟化によるきめ細やかな指導、個人の習熟度別学習、児童生徒自身が学びを選択できる自由度の高い教育。
- ・ 地域連携と山ノ内町の強みの活用
 - 。 ALTの配置や国際交流を活かしたグローバル教育の推進。
 - 。 「融合」の概念に基づき、従来の小中学校の枠にとらわれない新しい学校スタイルの創造。

- 2. 現段階の課題意識

- 年齢差による懸念:

- 小学校と中学校の児童生徒の年齢差（特に保育園上がりと高校進学を控えた9年生）への対応。
- 保健室の利用方法の違いや養護教諭の人員不足。

- 通学と体力低下、保護者負担:

- バス通学による児童生徒の体力低下。
- バス運行時間による放課後活動への制約や、それに伴う保護者の送迎負担増加。

- 地域との関わりと人材不足:

- 保護者や地域住民の学校への関心低下。
- 地域ボランティア人材の不足。
- 地域住民の間にある地域分断意識（東西南北の地区など）。

- 保護者とこども（大人とこども）の関係性:

- 保護者（おとな）の過干渉による児童生徒の依存性や、自己決定の場や力

- ・ 3. 委員会で議論すべき項目

- ・ 児童生徒の健全な育成

小学5・6年生を含む部活動の具体的な運用方法、異年齢交流の促進策、バス通学による体力低下対策、多様な学びに対応するためのカリキュラムの柔軟性、個別最適な学びと集団での学びのバランスなど。

- ・ 学校運営体制

養護教諭の複数人体制の確保、教員や支援員の効果的な配置、放課後児童クラブを含めた放課後対策と空き施設の有効活用。

- ・ 地域との連携強化

地域住民の学校への参画を促す仕組みづくり、PTAや既存の地域活動団体との連携強化、コミュニティ・スクールの愛称検討、地域分断意識の克服と「山ノ内町全体が地元」という意識醸成。

- ・ 保護者・地域住民の意識改革

統合までの期間に保・小・中間の連携事業やPTA交流の場を設け、保護者の理解を深める取り組み。

- ・ その他

新しい学校を「融合」の場として捉え、従来の小中学校の固定観念を払拭するための意識改革。

これまでの議論をふりかえる

第3回準備委員会では「コミュニティスクールでおしゃべり」

大人が学校施設を使ってやりたいこと

○ 遊び・レクリエーションを通じた多世代交流

学校施設を舞台に、こどもと大人が一緒に楽しめる活動アイデアが豊富に出された。普段できない体験や、昔行われていた活動の復活に期待が集まり、大人も全力で楽しむ姿を見せることが重要。

具体的なアイデア例：乗用モアレース、ギネス記録挑戦、学校探検、全校ご飯、学校で逃走中、火おこし体験、焼き芋大会、ジビエ給食、サップ体験、料理、音楽（コカリナ演奏、レコーディング）、大規模絵画制作、カラオケ大会、コンサート、学校博物館、屋外映画上映、理科の実験、SNSやAIの使い方学習、キャンプファイヤー、学校でお泊り会、マルシェ、ビアガーデンなど。

これまでの議論をふりかえる

山ノ内全体が地元という意識を高めるために…

○ 地域間の分断意識の現状

山ノ内町には歴史的に地域間意識があり、特に東西南北で文化の違いがあることが共有された。懇談会の参加者数にも地域差が見られ、高齢者ほど地域への愛着が強く、地域間意識も強い傾向がある。

○ 一体感醸成への提案

地域間の分断を乗り越え、山ノ内町全体を「地元」という意識で捉えるための方策が議論された。

主な提案:

- ・ コミュニティ・スクールを通じた地域のつながり。
- ・ 多世代交流の促進（特に中学生にとって重要）。
- ・ 共同作業を通じた地域のつながり強化と文化継承。
- ・ 学校の総合的な学習の時間などでの、地域を巻き込む活動での協働。
- ・ 楽しいイベント開催による地域住民の参加促進。
- ・ 生徒がSNSを活用するなどしての、町全体の発信力の強化。（児童生徒の発信を町民が受けとる）
- ・ 「東西南北」という言い方をやめて地区名で呼ぶことなど、意識改革。
- ・ 地域ごとの特色を活かしたワークショップ。

これまでの議論をふりかえる

第4回準備委員会では

「多様なこどもたちのための多様な学びの環境」

「学校の意義と、明日も来たくなる学校に必要なこと」

キーワードが12個(+2個)示されました。

「最低限の学習」「人とのつながり」「学校として心を育てる」

「友だち」「3なし(先生 教室 单元)」「挑戦 やり続けられる」

「社会性を伸ばす」「教師の柔軟性・あり方」「前向きになり認められる」

「AIに頼りすぎない学びあい」「経験と仲間づくり」

「つながり・仲間づくり」「こどもと保護者のセーフティーネット」

「こどもも大人もやりたいができる」

これをまとめてみると・・・

「学校の意義と、明日も来たくなる学校とは」

Aグループ・・・学びと人とのつながり、心を育む場所。

Bグループ・・・枠にとらわれず、友だちと挑戦を続ける場所。

Cグループ・・・AIとも協働し、仲間と経験を積み、お互いを認め合える場所。

Dグループ・・・誰もがやりたいことを実現できる、安心できる居場所。

↓
多様な人々がつながり、挑戦を通して前向きになれる、安心できる場所（学校）

⇒ こども一人ひとりが自らの興味関心をワクワクしながら深めることができる学びができる

新しい学校の方向性が見えてきた！

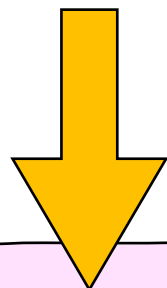
多様な人々がつながれる

こどもや大人の挑戦を応援できる

安心できる居場所

最上位目標

こども一人ひとりが自らの興味関心をワクワクしながら楽しく深めることができる学びができる



今後の施設整備でも教育内容の検討でも

- ☆ 多様な人々のつながりをうみやすいこと
- ☆ こどもや大人が挑戦したくなる・挑戦を支えること(ともに学び育つ)
- ☆ 誰もが安心できる、多様なタイプの居場所や学び方がある

これらを十分に考慮しながら、議論をしたい。



まちづくりこども委員会では・・・

① 学校の中で居心地の良い場所について

- ・廊下 廊下がほかのクラスの友達と話す場所になっている。
- ・音楽室 いろいろな楽器に囲まれていると落ち着く。
- ・視聴覚室 のんびりできる場所になっている。
- ・玄関 自由に使っていい電子ピアノが置いてあり、ときどき弾いている。
- ・保健室 先生が好きだから。
- ・教室 結局いつもいるし教室がいいと思う。

② 居心地が悪い場所・不安な場所について

- ・職員室 何か良くないときに呼ばれる場所だと感じる。
職員室に入るときのルールがあって、大事かもしれないけれどもどうかとも思う。

③ 授業について

- ・友達と相談して考えあうような授業は楽しいと思う。
- ・聞いて書いているばかりの授業は退屈だと思う。
- ・3年生になると毎月テストがある。そんなに必要なのかと思う。本当に苦手なことなどがわかるならいいけれども、結局点数がついて比べられるだけと感じてしまう。

これまでの議論をふりかえる

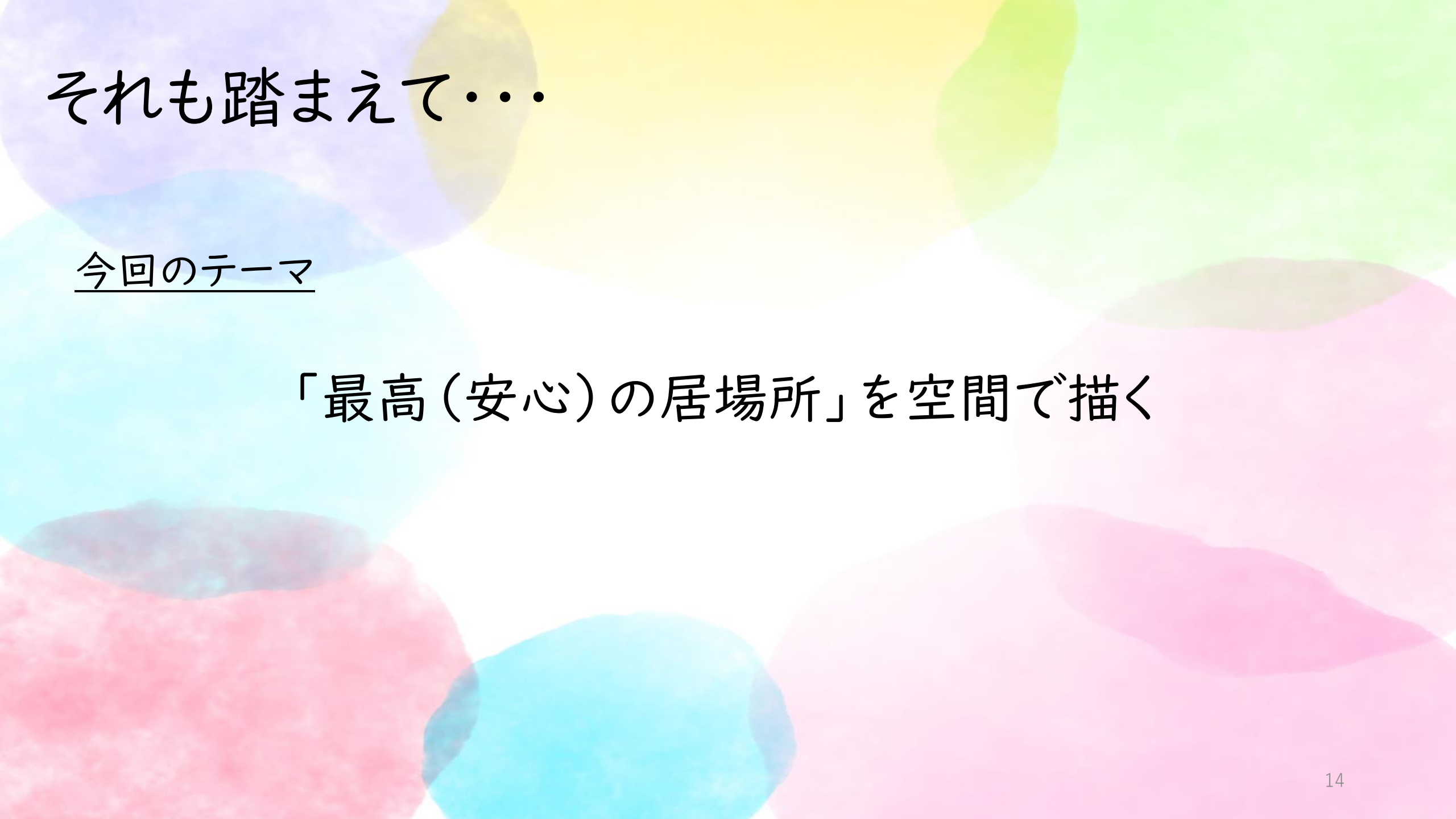
保護者懇談会では...

- 1 新しい学校のあり方とカリキュラム ～可能性が広がる学びの場～
- 2 地域とのつながり・交流 ～学校がまちの拠点に～
- 3 義務教育学校への期待とわからないこと ～9年間で大きく育つこどもたち～
- 4 放課後の過ごし方と居場所 ～安心できる居場所と多様な活動～
- 5 教職員の体制と行事の工夫 ～こどもたちを支えるプロフェッショナルな先生たち～
- 6 安全な通学方法 ～安心・安全な学校生活のために～
- 7 その他 ～細やかな配慮と大人も集える学校へ～

これまでの議論をふりかえる

地域懇談会では…

- 1 地域と学校が協働するコミュニティ・スクール
～学校が地域の核となり、みんなで育む子育て～
- 2 義務教育学校での学びとこどもの成長 ～9年間で育む、一人ひとりの可能性～
- 3 こどもの居場所と遊び場の確保 ～こどもたちの笑顔あふれる居場所づくり～
- 4 廃校施設の有効活用と地域の活性化 ～町の宝を未来へつなぐ、新たな拠点に～
- 5 新しい学校づくりと住民の当事者意識 ～みんなで築く、未来へひらく学校～



それも踏まえて・・・

今回のテーマ

「最高（安心）の居場所」を空間で描く

グループワーク 最高の居場所を空間で描く

こどもたちが「この学校に来てよかった」と思えるような「最高の居場所」を考えてみましょう。

- ① (個人で) こどもにとって最高(安心)の居場所となると思うものを、思いっくだけ付箋に書く (例 友達と自由に話せる場所 静かに読書ができる場所 座布団のある部屋 ゴロゴロできる空間……)
- ② どんどん紹介しながら模造紙にはる。似たアイデアをグルーピングしていく。
- ③ 想定施設の資料を見て、どの部屋が対応するか話し合い、模造紙に書き込む。(仮に想定施設にない場合は、どんな部屋が対応できるか考え書く)
- ④ (時間があれば) その部屋にどんな設備や備品が必要か書き込む

まとめ方（図式）



意見の共有（ワールドカフェ方式）

- 1 席に残る2名と、他のグループに行く4名（3名）を決める
移動する人は、すべてのグループ（他の3つのグループ）に分散する。
- 2 移動が終わったら残った人が、自分のグループでどんな話をしたのか、模造紙を示しながら2分で話をする。それをもとに、5分程度対話をする。
- 3 元の席に戻る。
他のグループに行ってきた人は、自分のグループのメンバーに話し合いの様子や、出てきた意見を紹介し共有する。（5分程度）

町制70周年記念 「これからの学校をみんなでつくろう！」

山ノ内町学校づくりシンポジウム

2030やまのうち義務教育学校への挑戦



11.16 (日)

📍 会場：山ノ内町文化センター
山ノ内町平穏4015-1

第1部 座談会

「未来の学校を語る」

信州大学学術研究院教育学系教授	伏木久始 氏
文部科学省CSマイスター	猿渡智衛 氏
長野県教育委員 CSアドバイザー	伴美佐子 氏

第2部 パネルディスカッション

「山ノ内だからできる 未来の学校への期待」

講演を行う3名に加えて
町内学校の校長、保育園保護者
山ノ内町で学ぶ生徒も登壇予定!

第3部 意見交換

参加者同士でおしゃべり

山ノ内町教育委員会子ども未来課
TEL：0269-33-1102
Mail：gakko@town.yamanouchi.lg.jp

時間：13:30～16:30
参加費：無料
申込み：下のQRコードより
〆 切：11月9日(日)



託児あり!
子ども同伴OK!

託児希望についても
QRコードよりお願いします。



主催：山ノ内町教育委員会 協力：山ノ内町立学校づくり準備委員会

座談会 スピーカー

こどもも大人もチャレンジャー



伏木 久始 (Fusegi Hisashi) (信州大学学術研究院教育学系教授 博士-教育学)
東京都内で心理相談員、中高一貫校教諭を経験後に大学院博士課程に進学し、学位取得後に大学附属小学校教諭として総合学習の実践に打ち込む。40歳の時に信州大学教育学部に転勤。以後、国内外の学校改革の指導講師&伴走者として東奔西走中。文科省中教審教育課程専門員、長野県教育委員会教育長職務代理者、フィンランド国立教育研究所研究員など歴任した。現在はNITS信州大学センターの運営を兼ねながら、人口減少問題に悩む過疎地域の学校づくり支援に尽力している。

猿渡 智衛 (Saruwatari Tomoe) (文部科学省 CS マイスター)

昨年度まで原発事故被災地の福島県楡葉町で指導主事 兼 地域学校協働センター長を務める。過去には文科省で地域学校協働推進室と放課後子ども総合プラン連携推進室に所属し、地域学校協働活動と放課後子供教室の推進に従事するとともに、学校・地域連携協働推進プロジェクトチームにも所属し、連携支援係長として被災三県における復興教育の推進にも従事した。文部科学省総合教育政策局のCSマイスターとして、主に福島、石川、長野を担当し、能登半島地震からの教育活動を通じた地域コミュニティの復興も担当する。



伴 美佐子 (Ban Misako) (長野県教育委員 長野県 CS アドバイザー)

上田市塩田公民館の社会教育指導員を務めた経験から、「地域と学校の連携・協働」にかかわる活動に取り組む。現在は長野県教育委員会 CS アドバイザーとしても活動し、県内はもとより多くの学校や地域で研修会講師を務める。上田市立北小学校のCS地域コーディネーターとして「日本一幸せな学校」を地域とこどもたちと先生方とつくりたいと日々奮闘している。



パネルディスカッション パネリスト

町内学校の校長先生

町内保育園の保護者

町内学校の生徒 と 3名のスピーカーが登壇予定



パネルディスカッション モデレーター

竹内 延彦 (Takeuchi Nobuhiko) (山ノ内町教育長)



こども一人ひとりが自らの興味関心をワクワクしながら楽しく深めることのできる学び

○新しい学校の基本情報

- (1) 9年間の学びの連続性や一貫性が伴った「義務教育学校」による学校統合
- (2) 地域コミュニティと学校が一体となった「コミュニティ・スクール」の構築
- (3) 設置場所 山ノ内中学校敷地
- (4) 開校時期 令和12年4月 (現小学校4年生が新しい学校の最高学年になります)



500人を超える6歳から15歳の山ノ内町のこどもたちが、町内全域から『ひとつの学校』に通う姿をイメージしてください。また、そのすべてのこどもたちが、学年や地域の枠を超えて共に育ちあい学びあう姿をイメージしてください。…あなたはワクワクしませんか!?